様式１

同　意　書

胃がん検診の目的と方法

○胃がん検診は、症状がない時期にできるだけ早く胃がんを見つけ、早く治療する目的で

行われています。その方法には、バリウムを用いる方法（胃エックス線検査）と内視鏡

を用いる検査（胃内視鏡検査）があり、いずれもその効果が証明されています。また、

両者の方法には良いところと悪いところがあります。

胃内視鏡検査の方法

○口又は鼻から胃内視鏡を挿入し、食道・胃・十二指腸を内腔から観察し病気を探します。

異常がある場合には、病変の一部をつまみ（生検）、細胞の検査を行うことがあります。

○また、色素を散布して、病変を見やすくすることがあります。

○なお、生検が行われた場合、生検については保険診療として別途請求があります。

当日は健康保険証を持参してください。また、生検により粘膜に傷ができますので、

検査後当日の食事は軟らかい消化のよいものを食べてください。飲酒、過激な運動、

長湯、旅行などは避けてください。

偶発症

○偶発症が発生する頻度は、胃内視鏡検診では10万件に87件と全国調査により報告され

ています。この中には鼻出血などの軽微なものから入院例まで含まれています。

現在、胃内視鏡検診による死亡事故は報告されていませんが、ごくまれに死亡の可能性

もあります。

○胃内視鏡検査では、以下の偶発症が起きる可能性があります。

１）胃内視鏡により粘膜に傷がつくことや、出血、穿孔（穴があくこと）

２）生検による出血、穿孔

３）薬剤によるアレルギー（呼吸困難、血圧低下など）

４）検査前からあった疾患の悪化（症状の出ていなかった疾患も含む）

●なお、当施設では偶発症の防止のために十分な注意を払うとともに、偶発症が発生した

場合には最善の対応をいたします。

平成　　年　　月　　日　　　　説明医師名

●上記の事項について、説明を受け、十分に理解しましたので、その実施に同意します。

平成　　年　　月　　日

受診者署名

受診者代理署名　　　　　　　　　　　　　　　　　　（続柄）

様式３

胃がん検診 内視鏡画像評価票

　　年　　月　　日

検診機関名（　　　　　　　　　　　　　　　　）

|  |
| --- |
| Ⅰ.画像の網羅性  　　□満足しうる　□多少改善の余地あり　□かなり改善の余地あり　□大幅に改善の余地あり  ※改善を要する部位 （Ⅰで「満足しうる」以外の場合チェック）  □食道  □噴門部  □穹窿部  □胃体上部　→　□前壁　□後壁　□小彎　□大彎曲  □胃体中部　→　□前壁　□後壁　□小彎　□大彎曲  □胃体下部　→　□前壁　□後壁　□小彎　□大彎曲  □胃角部  □前庭部  □幽門部  □球部  ｛□十二指腸下行部（脚）｝…観察は必須ではない |
| Ⅱ.画像の条件  　　□満足しうる　□多少改善の余地あり　□かなり改善の余地あり　□大幅に改善の余地あり  ※改善を要する点 （Ⅱで「満足しうる」以外の場合チェック）  □色調　　　　　　　　→　□赤みが強い　□黄色味が強い　□青味が強い  □露出　　　　　　　　→ □オーバー気味　□アンダー気味  □レンズ面ののっかり　→　□目立つ　□多少目立つ  □ぶれ・ピントのずれ　→　□目立つ　□多少目立つ |
| Ⅲ.内視鏡操作による物理的粘膜損傷の程度  　　□満足しうる　□多少改善の余地あり　□かなり改善の余地あり　□大幅に改善の余地あり  ※改善を要する点 （Ⅲで「満足しうる」以外の場合チェック）  □内視鏡の接触や吸引による出血・発赤などの変化　→　□目立つ　□多少目立つ |
| Ⅳ.空気量  　　□丁度よい　□多い　□多少少ない　□かなり少ない |
| Ⅴ.画像のコマ数  　　□丁度よい　□かなり多い　□多少多い　□かなり少ない |
| Ⅵ.前処置  　　□満足しうる　□多少改善の余地あり　□かなり改善の余地あり　□大幅に改善の余地あり  ※改善を要する点 （Ⅵで「満足しうる」以外の場合チェック）  □粘液・内服薬などの粘膜への付着　→　□目立つ　□多少目立つ  □食物残渣　　　　　　　　　　　　→　□目立つ　□多少目立つ |
| Ⅶ.その他（その他の気付いた点を記入） |
|

◎総合評価

|  |
| --- |
| □良好  　□もう少し改善が必要  　□かなり改善が必要  　□複数の委員で検討した結果、上記の理由で検診に足る画像ではないと判断 |

評価機関名（　　　　　　　　　　　　　　　　　　）